

# 安全データシート(SDS)

## 1. 製品および会社情報

製品名	活食市場 M-1
会社名	美峰酒類株式会社
住所	〒370-0807 群馬県高崎市歌川町1番地
担当部門	営業部
電話番号	027-322-2155
FAX番号	027-327-2404
緊急連絡先	同上
推奨用途及び 使用上の制限	食品の品質保持、製造器具等の除菌

## 2. 危険物有害性の要約

### GHS分類

物理化学的危険性	引火性液体 自然発火性液体 自己発熱性化学品 金属腐食性化学品	区分2 区分に該当しない 分類できない 分類できない
健康に対する有毒性	急性毒性(経口) 急性毒性(経皮) 急性毒性(吸入:蒸気) 急性毒性(吸入:ミスト) 皮膚腐食性/刺激性 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 呼吸器感作性 皮膚感作性 生殖細胞変異原性 発がん性 生殖毒性 特定標的臓器毒性(単回ばく露) 特定標的臓器毒性(反復ばく露) 誤えん有害性	区分に該当しない 区分に該当しない 区分に該当しない 分類できない 区分に該当しない 区分2B 分類できない 分類できない 分類できない 分類できない 区分1A 区分3(気道刺激性、麻酔性) 区分1(肝臓)、区分2(神経) 分類できない
環境に対する有害性	水生環境有害性 短期(急性) 水生環境有害性 長期(慢性) オゾン層への有害性	区分に該当しない 区分に該当しない 分類できない

上記に記載がない危険有害性は、区分に該当しないか分類できない

### GHSのラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語

危険

危険有害性情報

引火性の液体および蒸気  
強い眼刺激  
生殖能または胎児への悪影響のおそれ  
呼吸器への刺激のおそれ  
眠気やめまいのおそれ  
長期または反復ばく露による肝臓の障害  
長期または反復ばく露による神経の障害のおそれ

注意書き

【安全対策】

使用前に取扱説明書を入手すること。  
熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること(禁煙)。  
防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。  
容器を接地すること、アースをとること。  
火花を発生させない工具を使用すること。  
静電気放電に対する予防措置を講ずること。  
容器を密閉しておくこと。  
涼しいところに置くこと。  
ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。  
取り扱い後は手をよく洗うこと。  
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。  
屋外または換気の良い区域でのみ使用すること。  
保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。  
指定された個人用保護具を使用すること。

【保管】

換気のよい場所で保管すること。  
直射日光の当たる場所には保管しないこと。  
容器を密閉しておくこと。

【廃棄】

内容物や容器を自治体の規定に従い廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

単一・混合物の区別

混合物

成分及び含有量

化学名	CAS番号	含有量(wt%)
エタノール	64-17-5	51.0
グリセリン脂肪酸エステル	-	0.4
クエン酸	5949-29-1	0.1
クエン酸ナトリウム	6132-04-3	0.1
乳酸	79-33-4	0.5
乳酸ナトリウム	867-56-1	0.1
トレハロース	-	0.1
精製水	7732-18-5	47.7

4. 応急措置

皮膚(又は毛髪)に付着した場合

直ちに、すべての汚染された衣類を脱ぐこと、取り除くこと。

皮膚を流水、シャワーで洗うこと。

#### 吸入した場合

空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

気分が悪い時は医師に連絡すること。

#### 眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易に

外せる場合には外すこと。その後も洗浄を続けること。

医師の診断、手当てを受けること。

#### ばく露またはその懸念がある場合

医師の診断、手当を受けること。

#### 目の刺激が持続する場合

医師の診断、手当を受けること。

気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

#### 火災の場合

消火のために大量の水噴霧、またはアルコール用の消火器を

使用すること。

#### 飲み込んだ場合

水でよく口の中を洗浄した後、コップ数杯の清水を飲ませ希釈し、可能であれば

吐き出させ、ただちに医師の手当てを受ける。ただし、意識がない場合は

口から何も与えてはならない

また、吐かせようとしてはならない。直ちに医師の手当てを受ける。

## 5. 火災時の措置

### 消火剤

耐アルコール泡、水、粉末、炭酸ガス

### 消火方法

初期の火災には、大量の水噴霧、または粉末、炭酸ガスなどの消火器による消火を行う。

大規模火災には、耐アルコール泡消火剤を用いて空気を遮断する。

## 6. 漏出時の措置

### 人体に対する注意事項／保護具及び緊急時処置：

関係者以外の立ち入りを禁止する。

高濃度の蒸気にさらされないように保護眼鏡、適当な保護具を着用する。

### 環境に対する注意事項

流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。

大量の水で希釈する場合は、汚染された排水が適切に処理されずに環境へ

流出しないように注意する。

### 封じ込め及び浄化の方法・機材

少量の場合には、こぼれた場所を速やかに大量の水で洗い流す。

大量の場合には、漏出液を密閉式の空容器に出来るだけ回収し

回収できなかった場所へは大量の水で洗い流す。

### 二次災害の防止策

浸透性及び揮発性があるので、付近の着火源となるものは速やかに取り除く。

## 7. 取り扱い及び保管上の注意

### 取扱い

#### 技術的対策

「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

#### 局所排気・全体換気

「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、換気に注意する。

注意事項  
みだりに火気その他点火源となる恐れのあるものに接近させ若しくは注ぎ、蒸発させ、又は加熱しないこと。  
容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。  
取扱い及び保管施設の電気設備は、すべて防爆構造とし、アルコール流動その他によって静電気を発生させる恐れのある場所にはこれを有効に除去する装置を設けること。  
取扱う設備のある場所を常に整理整頓し、その場所に可燃性のもの、又は酸化性のものを置かない。

安全取扱い注意事項 「10. 安定性及び反応性」を参照

#### 保管

適切な保管条件  
火気その他危険な場所から遠ざけ通風を良くし、温度、湿度、遮光に注意し冷暗所に保管する。  
容器容器の蓋は閉めておく。  
直射日光の当たる場所には保存しないこと。

#### 8. ばく露防止及び保護措置

設備対策  
取り扱いについては、火気のない換気の良い場所で行う。

許容濃度  
エタノール100%の場合  
日本産衛学会 設定なし(2009年版)  
ACGIH STEL 1,000ppm(2009年版)

管理濃度  
エタノール100%の場合 設定なし

保護具  
必要に応じてゴム手袋、ゴム前掛、安全靴、保護眼鏡、保護マスクを着用する。

#### 9. 物理的及び化学的性質

外観等  
無色透明な液体で特有の芳香を持つ。

pH  
3.8 ~ 4.8

溶解溶解度  
水、エーテルによく溶ける

沸点、融点  
データなし

引火点、自然発火温度  
データなし

燃焼又は爆発範囲の上限、下限  
データなし

蒸気圧、蒸気密度  
データなし

比重(相対密度)  
0.914 ~ 0.920 (15°C)

#### 10. 安定性及び反応性

化学的安定性  
通常の取り扱い条件においては安定であり、危険有害な分解生成物は発生しない。

危険有害反応可能性  
硝酸、硝酸銀、硝酸水銀、過塩素酸マグネシウムなどの強酸化剤と激しく反応し、火災や爆発の危険をもたらす。  
ある種のプラスチック、ゴム、被膜剤を侵す。

避けるべき条件  
高温へのばく露

混触危険物質  
情報なし

危険有害な分解生成物  
情報なし

#### 11. 有害性情報(エタノール(事業法アルコール)として)

急性毒性  
経口 ヒト LD<sub>50</sub> 1,400mg/kg 行動、胃腸(吐気)  
経口 ラット LD<sub>50</sub> 7,060mg/kg 呼吸器系

	経口 ヒト(男) TDL0 700mg/kg 行動(精神生理学上)
	吸入 ラット LC50 20,000ppm/10h 毒性未評価
	注射 ラット LD50 1,440mg/kg 呼吸器系
	注射 犬 LDL0 1,600mg/kg 運動失調、呼吸器系
	腹腔 哺乳類 LD50 4,300mg/kg 運動失調
皮膚腐食性／刺激性	皮膚 ラビット 400mg 開放 症状(軽度) 皮膚 ラビット 500mg/24h 症状(重度)
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	OECD TG405及びDraize testに従った試験により「moderate irritating」と評価されている。 ヒトで角膜上皮の障害、結膜充血は1、2日間で回復する。 眼 ラビット 100mg/24h 症状(中度)
呼吸器感作性	情報なし
皮膚感作性	動物試験での有意の皮膚感作性は見られない。
生殖細胞変異原性	ラット及びマウスにおける優勢致死試験において、陽性結果の報告がある。
変異原性	小核 マウス(腹腔):1,240mg/kg・48h
発がん性	IARCでは「アルコール性飲料としてヒトに発がん性がある」としてグループ1に分類しているが、これは、アルコール性飲料を習慣的に摂取するヒトの多数の疫学調査に基づき、アルコール性飲料と食道系及び肝臓がんの因果関係を認めたものである。 経口 マウス TDL0 320mg/kg/50週毒性未評価
生殖毒性	アルコールの習慣的な大量摂取により、ヒト胎児に対する奇形その他の悪影響が多数報告されている。 吸入 ラット TCL0 20,000ppm/7h、妊娠、1～22日 発育異常 経口 ラット TDL0 44g/kg、妊娠、7～17日 発育異常
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	ヒトでエタノールの経口摂取により中枢神経に影響を与え、頭痛、疲労、集中力を低下させ急性中毒の場合には、死に至ることがある。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	ヒトで5,000ppm(9.4mg/L)の吸入により、気道刺激性、昏迷、病的睡眠を起こす。 ヒトでアルコールの長期大量摂取によりほとんどすべての器官に障害を起こすが最も悪影響を与える標的臓器は肝臓である。障害は脂肪変性に始まり、壊死と繊維化を経て肝硬変に至る。 アルコール中毒患者の禁断症状(振戦症状、てんかん、精神錯乱)
誤えん有害性	情報なし

## 12. 環境影響情報(エタノール(事業法アルコール)として)

残留性／分解性	データなし
生態毒性	データなし
生物蓄積性	データなし
土壌中の移動性	データなし
オゾン層有害性	データなし

## 13. 廃棄上の注意

残余廃棄物については、燃焼炉の火室へ噴霧し、焼却する。  
廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。  
都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、若しくは、地方公共団体がその処理を行っている場合には、そこへ委託して処理する。  
廃棄物の処理を委託する場合、処理業者に危険性、有害性を十分告知のうえ

処理を委託する。

容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

使用後の容器又は配管等を廃棄処分する時は、内容物を水洗してから処理する。

取扱い及び保管上の注意の項の記載による他、引火性液体に関する一般的な注意事項による。

#### 14. 輸送上の注意

国連分類	クラス 3 (引火性液体) 国連番号 : 1987 アルコール類 容器等級 II
国内規制	
航空法	規則第194条 3 引火性液体 (引火点60℃以下)
港則法	規則第12条 危険物告示別表 2号 ホ
海洋汚染及び海上災害の防止に関する法律	
	施行令別表第13号 イ 20 Z類物質
危険物船舶運送及び貯蔵規則	第2条第1号 ハ (1) 引火性液体

取扱い及び保管上の注意の項の記載による

#### 15. 適用法令

化学物質排出把握管理促進法	非該当
消防法	非該当
食品衛生法	食品添加物
労働安全衛生法	施行令 別表第1 危険物 第4号 引火性の物 3(エタノール) 施行令 別表第9 名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物 61(エタノール)

#### 16. その他の情報

参考文献	財団法人バイオインダストリー協会 : アルコールハンドブック第9版(1997) 社団法人日本化学会編:化学便覧(改定4版)p. I - 280、I - 604、丸善(1993) 化学工業日報社:13700の化学商品. 化学工業日報社:国際化学物質安全性カード(ICSC) 日本語版第3集(1997) 通産省公報(平成5年12月28日) Verschuereen, K. : Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals 4th ed.,(2001) 独立行政法人製品評価技術基盤機構 GHS分類結果 ID:25B0007 エタノール(平成25年度) DFGOT (1996) ACGIH (2009) DFGOT vol.12(1999) IARC vol.144(1988) ICSC (2000) HSDB (2003)
------	--

#### 【注意】

この情報は新しい知見及び試験等により改正されることがあります。

記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが

情報の正確さ、完全性を保証するものではありません。

注意事項は通常の取扱いを対象としたものです。特別な扱いをする場合には、新たに用途・用法に適した安全対策を講じた上で実施願います。

全ての化学品には未知の毒性があり得るため、取扱いには細心の注意が必要です。

本品の適正に関する決定は、使用者の責任において行ってください。

# 安全データシート(SDS)

## 1. 製品および会社情報

製品名	活食市場 M-11
会社名	美峰酒類株式会社
住所	〒370-0807 群馬県高崎市歌川町1番地
担当部門	営業部
電話番号	027-322-2155
FAX番号	027-327-2404
緊急連絡先	同上
推奨用途及び 使用上の制限	食品の品質保持、製造器具等の除菌

## 2. 危険物有害性の要約

### GHS分類

物理化学的危険性	引火性液体	区分2
	自然発火性液体	区分に該当しない
	自己発熱性化学品	分類できない
健康に対する有毒性	金属腐食性化学品	分類できない
	急性毒性(経口)	区分に該当しない
	急性毒性(経皮)	区分に該当しない
	急性毒性(吸入:蒸気)	区分に該当しない
	急性毒性(吸入:ミスト)	分類できない
	皮膚腐食性/刺激性	区分に該当しない
	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分2B
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	区分1A
	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分3(気道刺激性、麻酔性)
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分1(肝臓)、区分2(神経)	
誤えん有害性	分類できない	
環境に対する有害性	水生環境有害性 短期(急性)	区分に該当しない
	水生環境有害性 長期(慢性)	区分に該当しない
	オゾン層への有害性	分類できない

上記に記載がない危険有害性は、区分に該当しないか分類できない

### GHSのラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語

危険

危険有害性情報

引火性の液体および蒸気  
強い眼刺激  
生殖能または胎児への悪影響のおそれ  
呼吸器への刺激のおそれ  
眠気やめまいのおそれ  
長期または反復ばく露による肝臓の障害  
長期または反復ばく露による神経の障害のおそれ

注意書き

【安全対策】

使用前に取扱説明書を入手すること。  
熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること(禁煙)。  
防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。  
容器を接地すること、アースをとること。  
火花を発生させない工具を使用すること。  
静電気放電に対する予防措置を講ずること。  
容器を密閉しておくこと。  
涼しいところに置くこと。  
ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。  
取り扱い後は手をよく洗うこと。  
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。  
屋外または換気の良い区域でのみ使用すること。  
保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。  
指定された個人用保護具を使用すること。

【保管】

換気のよい場所で保管すること。  
直射日光の当たる場所には保管しないこと。  
容器を密閉しておくこと。

【廃棄】

内容物や容器を自治体の規定に従い廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

単一・混合物の区別

混合物

成分及び含有量

化学名	CAS番号	含有量(wt%)
エタノール	64-17-5	58.3
グリセリン脂肪酸エステル	-	0.01
乳酸	79-33-4	0.03
乳酸ナトリウム	867-56-1	0.13
精製水	7732-18-5	41.53

4. 応急措置

皮膚(又は毛髪)に付着した場合

直ちに、すべての汚染された衣類を脱ぐこと、取り除くこと。  
皮膚を流水、シャワーで洗うこと。

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

気分が悪い時は医師に連絡すること。

#### 眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易に外せる場合には外すこと。その後も洗浄を続けること。

医師の診断、手当てを受けること。

#### ばく露またはその懸念がある場合

医師の診断、手当を受けること。

#### 目の刺激が持続する場合

医師の診断、手当を受けること。

気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

#### 火災の場合

消火のために大量の水噴霧、またはアルコール用の消火器を使用すること。

#### 飲み込んだ場合

水でよく口の中を洗浄した後、コップ数杯の清水を飲ませ希釈し、可能であれば吐き出させ、ただちに医師の手当てを受ける。ただし、意識がない場合は口から何も与えてはならない  
また、吐かせようとしてはならない。直ちに医師の手当てを受ける。

## 5. 火災時の措置

### 消火剤

耐アルコール泡、水、粉末、炭酸ガス

### 消火方法

初期の火災には、大量の水噴霧、または粉末、炭酸ガスなどの消火器による消火を行う。  
大規模火災には、耐アルコール泡消火剤を用いて空気を遮断する。

## 6. 漏出時の措置

### 人体に対する注意事項／保護具及び緊急時処置：

関係者以外の立ち入りを禁止する。

高濃度の蒸気にさらされないように保護眼鏡、適当な保護具を着用する。

### 環境に対する注意事項

流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。  
大量の水で希釈する場合は、汚染された排水が適切に処理されずに環境へ流出しないように注意する。

### 封じ込め及び浄化の方法・機材

少量の場合には、こぼれた場所を速やかに大量の水で洗い流す。

大量の場合には、漏出液を密閉式の空容器に出来るだけ回収し  
回収できなかった場所へは大量の水で洗い流す。

### 二次災害の防止策

浸透性及び揮発性があるので、付近の着火源となるものは速やかに取り除く。

## 7. 取り扱い及び保管上の注意

### 取扱い

#### 技術的対策

「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

#### 局所排気・全体換気

「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、換気に注意する。

#### 注意事項

みだりに火気その他着火源となる恐れのあるものに接近させ若しくは注ぎ、蒸発させ、又は加熱しないこと。

容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。

取扱い及び保管施設の電気設備は、すべて防爆構造とし、アルコール流動その他によって静電気を発生させる恐れのある場所にはこれを有効に除去する装置を設けること。  
取扱う設備のある場所を常に整理整頓し、その場所に可燃性のもの、又は酸化性のものを置かない。

安全取扱い注意事項 「10. 安定性及び反応性」を参照

## 保管

適切な保管条件 火気その他危険な場所から遠ざけ通風を良くし、温度、湿度、遮光に注意し冷暗所に保管する。  
容器容器の蓋は閉めておく。  
直射日光の当たる場所には保存しないこと。

## 8. ばく露防止及び保護措置

設備対策 取り扱いについては、火気のない換気の良い場所で行う。

許容濃度 エタノール100%の場合  
日本産衛学会 設定なし(2009年版)  
ACGIH STEL 1,000ppm(2009年版)

管理濃度 エタノール100%の場合 設定なし

保護具 必要に応じてゴム手袋、ゴム前掛、安全靴、保護眼鏡、保護マスクを着用する。

## 9. 物理的及び化学的性質

外観等 無色透明な液体で特有の芳香を持つ。

pH 5.5 ~ 6.5

溶解溶解度 水、エーテルによく溶ける

沸点、融点 データなし

引火点、自然発火温度 データなし

燃焼又は爆発範囲の上限、下限

データなし

蒸気圧、蒸気密度 データなし

比重(相対密度) 0.898 ~ 0.903 (15°C)

## 10. 安定性及び反応性

化学的安定性 通常の取り扱い条件においては安定であり、危険有害な分解生成物は発生しない。

危険有害反応可能性 硝酸、硝酸銀、硝酸水銀、過塩素酸マグネシウムなどの強酸化剤と激しく反応し、火災や爆発の危険をもたらす。

ある種のプラスチック、ゴム、被膜剤を侵す。

避けるべき条件 高温へのばく露

混触危険物質 情報なし

危険有害な分解生成物 情報なし

## 11. 有害性情報(エタノール(事業法アルコール)として)

急性毒性 経口 ヒト LDL0 1,400mg/kg 行動、胃腸(吐気)  
経口 ラット LD50 7,060mg/kg 呼吸器系  
経口 ヒト(男) TDL0 700mg/kg 行動(精神生理学上)  
吸入 ラット LC50 20,000ppm/10h 毒性未評価  
注射 ラット LD50 1,440mg/kg 呼吸器系

	注射 犬 LDL0 1,600mg/kg 運動失調、呼吸器系 腹腔 哺乳類 LD50 4,300mg/kg 運動失調
皮膚腐食性／刺激性	皮膚 ラビット 400mg 開放 症状(軽度) 皮膚 ラビット 500mg/24h 症状(重度)
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	OECD TG405及びDraize testに従った試験により「moderate irritating」と評価されている。 ヒトで角膜上皮の障害、結膜充血は1、2日間で回復する。 眼 ラビット 100mg/24h 症状(中度)
呼吸器感受性	情報なし
皮膚感受性	動物試験での有意の皮膚感受性は見られない。
生殖細胞変異原性	ラット及びマウスにおける優勢致死試験において、陽性結果の報告がある。
変異原性	小核 マウス(腹腔) :1,240mg/kg・48h
発がん性	IARCでは「アルコール性飲料としてヒトに発がん性がある」としてグループ1に分類しているが、これは、アルコール性飲料を習慣的に摂取するヒトの多数の疫学調査に基づき、アルコール性飲料と食道系及び肝臓がんの因果関係を認めたものである。 経口 マウス TDL0 320mg/kg/50週毒性未評価
生殖毒性	アルコールの習慣的な大量摂取により、ヒト胎児に対する奇形その他の悪影響が多数報告されている。 吸入 ラット TCL0 20,000ppm/7h、妊娠、1～22日 発育異常 経口 ラット TDL0 44g/kg、妊娠、7～17日 発育異常
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	ヒトでエタノールの経口摂取により中枢神経に影響を与え、頭痛、疲労、集中力を低下させ急性中毒の場合には、死に至ることがある。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	ヒトで5,000ppm(9.4mg/L)の吸入により、気道刺激性、昏迷、病的睡眠を起こす。 ヒトでアルコールの長期大量摂取によりほとんどすべての器官に障害を起こすが最も悪影響を与える標的臓器は肝臓である。障害は脂肪変性に始まり、壊死と繊維化を経て肝硬変に至る。 アルコール中毒患者の禁断症状(振戦症状、てんかん、精神錯乱)
誤えん有害性	情報なし

## 12. 環境影響情報(エタノール(事業法アルコール)として)

残留性／分解性	データなし
生態毒性	データなし
生物蓄積性	データなし
土壌中の移動性	データなし
オゾン層有害性	データなし

## 13. 廃棄上の注意

残余廃棄物については、燃焼炉の火室へ噴霧し、焼却する。  
 廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。  
 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、若しくは、地方公共団体がその処理を行っている場合には、そこへ委託して処理する。  
 廃棄物の処理を委託する場合、処理業者に危険性、有害性を十分告知のうえ処理を委託する。  
 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

使用後の容器又は配管等を廃棄処分する時は、内容物を水洗してから処理する。  
取扱い及び保管上の注意の項の記載による他、引火性液体に関する一般的な  
注意事項による。

#### 14. 輸送上の注意

国連分類	クラス 3 (引火性液体) 国連番号 : 1987 アルコール類 容器等級 II
国内規制	
航空法	規則第194条 3 引火性液体 (引火点60℃以下)
港則法	規則第12条 危険物告示別表 2号 ホ
海洋汚染及び海上災害の防止に関する法律	
	施行令別表第13号 イ 20 Z類物質
危険物船舶運送及び貯蔵規則	第2条第1号 ハ (1) 引火性液体

取扱い及び保管上の注意の項の記載による

#### 15. 適用法令

化学物質排出把握管理促進法	非該当
消防法	非該当
食品衛生法	食品添加物
労働安全衛生法	施行令 別表第1 危険物 第4号 引火性の物 3(エタノール) 施行令 別表第9 名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物 61(エタノール)

#### 16. その他の情報

参考文献	財団法人バイオインダストリー協会 : アルコールハンドブック第9版(1997) 社団法人日本化学会編:化学便覧(改定4版)p. I - 280、I - 604、丸善(1993) 化学工業日報社:13700の化学商品. 化学工業日報社; 国際化学物質安全性カード(ICSC) 日本語版第3集(1997) 通産省公報(平成5年12月28日) Verschuieren, K. : Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals 4th ed.,(2001) 独立行政法人製品評価技術基盤機構 GHS分類結果 ID:25B0007 エタノール(平成25年度) DFGOT (1996) ACGIH (2009) DFGOT vol.12(1999) IARC vol.144(1988) ICSC (2000) HSDB (2003)
------	---

#### 【注意】

この情報は新しい知見及び試験等により改正されることがあります。

記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが

情報の正確さ、完全性を保証するものではありません。

注意事項は通常の実施を前提としたものです。特別な扱いをする場合には、新たに用途・用法に  
適した安全対策を講じた上で実施願います。

全ての化学品には未知の有毒性があり得るため、取扱いには細心の注意が必要です。

本品の適正に関する決定は、使用者の責任において行ってください。

# 安全データシート(SDS)

## 1. 製品および会社情報

製品名	アルピース MN-67
会社名	美峰酒類株式会社
住所	〒370-0807 群馬県高崎市歌川町1番地
担当部門	営業部
電話番号	027-322-2155
FAX番号	027-327-2404
緊急連絡先	同上
推奨用途及び 使用上の制限	食品の品質保持、製造器具等の除菌

## 2. 危険物有害性の要約

### GHS分類

物理化学的危険性	引火性液体	区分2
	自然発火性液体	区分に該当しない
	自己発熱性化学品	分類できない
健康に対する有毒性	金属腐食性化学品	分類できない
	急性毒性(経口)	区分に該当しない
	急性毒性(経皮)	区分に該当しない
	急性毒性(吸入:蒸気)	区分に該当しない
	急性毒性(吸入:ミスト)	分類できない
	皮膚腐食性/刺激性	区分に該当しない
	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分2B
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	区分1A
	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分3(気道刺激性、麻酔性)
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分1(肝臓)、区分2(神経)	
誤えん有害性	分類できない	
環境に対する有害性	水生環境有害性 短期(急性)	区分に該当しない
	水生環境有害性 長期(慢性)	区分に該当しない
	オゾン層への有害性	分類できない

上記に記載がない危険有害性は、区分に該当しないか分類できない

### GHSのラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語

危険

危険有害性情報

引火性の液体および蒸気  
強い眼刺激  
生殖能または胎児への悪影響のおそれ  
呼吸器への刺激のおそれ  
眠気やめまいのおそれ  
長期または反復ばく露による肝臓の障害  
長期または反復ばく露による神経の障害のおそれ

注意書き

**【安全対策】**

使用前に取扱説明書を入手すること。  
熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること(禁煙)。  
防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。  
容器を接地すること、アースをとること。  
火花を発生させない工具を使用すること。  
静電気放電に対する予防措置を講ずること。  
容器を密閉しておくこと。  
涼しいところに置くこと。  
ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。  
取り扱い後は手をよく洗うこと。  
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。  
屋外または換気の良い区域でのみ使用すること。  
保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。  
指定された個人用保護具を使用すること。

**【保管】**

換気のよい場所で保管すること。  
直射日光の当たる場所には保管しないこと。  
容器を密閉しておくこと。

**【廃棄】**

内容物や容器を自治体の規定に従い廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

単一・混合物の区別

混合物

成分及び含有量

化学名	CAS番号	含有量(wt%)
エタノール	64-17-5	59.3
乳酸ナトリウム	867-56-1	0.03
精製水	7732-18-5	40.67

4. 応急措置

皮膚(又は毛髪)に付着した場合

直ちに、すべての汚染された衣類を脱ぐこと、取り除くこと。  
皮膚を流水、シャワーで洗うこと。

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

気分が悪い時は医師に連絡すること。

#### 眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易に外せる場合には外すこと。その後も洗浄を続けること。

医師の診断、手当てを受けること。

#### ばく露またはその懸念がある場合

医師の診断、手当を受けること。

#### 目の刺激が持続する場合

医師の診断、手当を受けること。

気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

#### 火災の場合

消火のために大量の水噴霧、またはアルコール用の消火器を使用すること。

#### 飲み込んだ場合

水でよく口の中を洗浄した後、コップ数杯の清水を飲ませ希釈し、可能であれば吐き出させ、ただちに医師の手当てを受ける。ただし、意識がない場合は口から何も与えてはならない  
また、吐かせようとしてはならない。直ちに医師の手当てを受ける。

## 5. 火災時の措置

### 消火剤

耐アルコール泡、水、粉末、炭酸ガス

### 消火方法

初期の火災には、大量の水噴霧、または粉末、炭酸ガスなどの消火器による消火を行う。  
大規模火災には、耐アルコール泡消火剤を用いて空気を遮断する。

## 6. 漏出時の措置

### 人体に対する注意事項／保護具及び緊急時処置：

関係者以外の立ち入りを禁止する。

高濃度の蒸気にさらされないように保護眼鏡、適当な保護具を着用する。

### 環境に対する注意事項

流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。  
大量の水で希釈する場合は、汚染された排水が適切に処理されずに環境へ流出しないように注意する。

### 封じ込め及び浄化の方法・機材

少量の場合には、こぼれた場所を速やかに大量の水で洗い流す。

大量の場合には、漏出液を密閉式の空容器に出来るだけ回収し  
回収できなかった場所へは大量の水で洗い流す。

### 二次災害の防止策

浸透性及び揮発性があるので、付近の着火源となるものは速やかに取り除く。

## 7. 取り扱い及び保管上の注意

### 取扱い

#### 技術的対策

「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

#### 局所排気・全体換気

「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、換気に注意する。

#### 注意事項

みだりに火気その他着火源となる恐れのあるものに接近させ若しくは注ぎ、蒸発させ、又は加熱しないこと。

容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。

取扱い及び保管施設の電気設備は、すべて防爆構造とし、アルコール流動その他によって静電気を発生させる恐れのある場所にはこれを有効に除去する装置を設けること。  
取扱う設備のある場所を常に整理整頓し、その場所に可燃性のもの、又は酸化性のものを置かない。

安全取扱い注意事項 「10. 安定性及び反応性」を参照

## 保管

適切な保管条件 火気その他危険な場所から遠ざけ通風を良くし、温度、湿度、遮光に注意し冷暗所に保管する。  
容器容器の蓋は閉めておく。  
直射日光の当たる場所には保存しないこと。

## 8. ばく露防止及び保護措置

設備対策 取り扱いについては、火気のない換気の良い場所で行う。

許容濃度 エタノール100%の場合  
日本産衛学会 設定なし(2009年版)  
ACGIH STEL 1,000ppm(2009年版)

管理濃度 エタノール100%の場合 設定なし

保護具 必要に応じてゴム手袋、ゴム前掛、安全靴、保護眼鏡、保護マスクを着用する。

## 9. 物理的及び化学的性質

外観等 無色透明な液体で特有の芳香を持つ。

pH 6.0 ~ 7.0

溶解溶解度 水、エーテルによく溶ける

沸点、融点 データなし

引火点、自然発火温度 データなし

燃焼又は爆発範囲の上限、下限  
データなし

蒸気圧、蒸気密度 データなし

比重(相対密度) 0.896 ~ 0.900 (15°C)

## 10. 安定性及び反応性

化学的安定性 通常の取り扱い条件においては安定であり、危険有害な分解生成物は発生しない。

危険有害反応可能性 硝酸、硝酸銀、硝酸水銀、過塩素酸マグネシウムなどの強酸化剤と激しく反応し、火災や爆発の危険をもたらす。  
ある種のプラスチック、ゴム、被膜剤を侵す。

避けるべき条件 高温へのばく露

混触危険物質 情報なし

危険有害な分解生成物 情報なし

## 11. 有害性情報(エタノール(事業法アルコール)として)

急性毒性 経口 ヒト LDL0 1,400mg/kg 行動、胃腸(吐気)  
経口 ラット LD50 7,060mg/kg 呼吸器系  
経口 ヒト(男) TDL0 700mg/kg 行動(精神生理学上)  
吸入 ラット LC50 20,000ppm/10h 毒性未評価  
注射 ラット LD50 1,440mg/kg 呼吸器系

	注射 犬 LDL0 1,600mg/kg 運動失調、呼吸器系 腹腔 哺乳類 LD50 4,300mg/kg 運動失調
皮膚腐食性／刺激性	皮膚 ラビット 400mg 開放 症状(軽度) 皮膚 ラビット 500mg/24h 症状(重度)
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	OECD TG405及びDraize testに従った試験により「moderate irritating」と評価されている。 ヒトで角膜上皮の障害、結膜充血は1、2日間で回復する。 眼 ラビット 100mg/24h 症状(中度)
呼吸器感受性	情報なし
皮膚感受性	動物試験での有意の皮膚感受性は見られない。
生殖細胞変異原性	ラット及びマウスにおける優勢致死試験において、陽性結果の報告がある。
変異原性	小核 マウス(腹腔) :1,240mg/kg・48h
発がん性	IARCでは「アルコール性飲料としてヒトに発がん性がある」としてグループ1に分類しているが、これは、アルコール性飲料を習慣的に摂取するヒトの多数の疫学調査に基づき、アルコール性飲料と食道系及び肝臓がんの因果関係を認めたものである。 経口 マウス TDL0 320mg/kg/50週毒性未評価
生殖毒性	アルコールの習慣的な大量摂取により、ヒト胎児に対する奇形その他の悪影響が多数報告されている。 吸入 ラット TCL0 20,000ppm/7h、妊娠、1～22日 発育異常 経口 ラット TDL0 44g/kg、妊娠、7～17日 発育異常
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	ヒトでエタノールの経口摂取により中枢神経に影響を与え、頭痛、疲労、集中力を低下させ急性中毒の場合には、死に至ることがある。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	ヒトで5,000ppm(9.4mg/L)の吸入により、気道刺激性、昏迷、病的睡眠を起こす。 ヒトでアルコールの長期大量摂取によりほとんどすべての器官に障害を起こすが最も悪影響を与える標的臓器は肝臓である。障害は脂肪変性に始まり、壊死と繊維化を経て肝硬変に至る。 アルコール中毒患者の禁断症状(振戦症状、てんかん、精神錯乱)
誤えん有害性	情報なし

## 12. 環境影響情報(エタノール(事業法アルコール)として)

残留性／分解性	データなし
生態毒性	データなし
生物蓄積性	データなし
土壌中の移動性	データなし
オゾン層有害性	データなし

## 13. 廃棄上の注意

残余廃棄物については、燃焼炉の火室へ噴霧し、焼却する。  
 廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。  
 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、若しくは、地方公共団体がその処理を行っている場合には、そこへ委託して処理する。  
 廃棄物の処理を委託する場合、処理業者に危険性、有害性を十分告知のうえ処理を委託する。  
 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

使用後の容器又は配管等を廃棄処分する時は、内容物を水洗してから処理する。  
取扱い及び保管上の注意の項の記載による他、引火性液体に関する一般的な  
注意事項による。

#### 14. 輸送上の注意

国連分類	クラス 3 (引火性液体) 国連番号 : 1987 アルコール類 容器等級 II
国内規制	
航空法	規則第194条 3 引火性液体 (引火点60℃以下)
港則法	規則第12条 危険物告示別表 2号 ホ
海洋汚染及び海上災害の防止に関する法律	
	施行令別表第13号 イ 20 Z類物質
危険物船舶運送及び貯蔵規則	第2条第1号 ハ (1) 引火性液体

取扱い及び保管上の注意の項の記載による

#### 15. 適用法令

化学物質排出把握管理促進法	非該当
消防法	非該当
食品衛生法	食品添加物
労働安全衛生法	施行令 別表第1 危険物 第4号 引火性の物 3(エタノール) 施行令 別表第9 名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物 61(エタノール)

#### 16. その他の情報

参考文献	財団法人バイオインダストリー協会 : アルコールハンドブック第9版(1997) 社団法人日本化学会編:化学便覧(改定4版)p. I - 280、I - 604、丸善(1993) 化学工業日報社:13700の化学商品. 化学工業日報社; 国際化学物質安全性カード(ICSC) 日本語版第3集(1997) 通産省公報(平成5年12月28日) Verschuieren, K. : Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals 4th ed.,(2001) 独立行政法人製品評価技術基盤機構 GHS分類結果 ID:25B0007 エタノール(平成25年度) DFGOT (1996) ACGIH (2009) DFGOT vol.12(1999) IARC vol.144(1988) ICSC (2000) HSDB (2003)
------	---

#### 【注意】

この情報は新しい知見及び試験等により改正されることがあります。

記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが

情報の正確さ、完全性を保証するものではありません。

注意事項は通常の実施を前提としたものです。特別な扱いをする場合には、新たに用途・用法に  
適した安全対策を講じた上で実施願います。

全ての化学品には未知の毒性があり得るため、取扱いには細心の注意が必要です。

本品の適正に関する決定は、使用者の責任において行ってください。

# 安全データシート(SDS)

## 1. 製品および会社情報

製品名	活食市場 WM-58
会社名	美峰酒類株式会社
住所	〒370-0807 群馬県高崎市歌川町1番地
担当部門	営業部
電話番号	027-322-2155
FAX番号	027-327-2404
緊急連絡先	同上
推奨用途及び 使用上の制限	食品の品質保持、製造器具等の除菌

## 2. 危険物有害性の要約

### GHS分類

物理化学的危険性	引火性液体 自然発火性液体 自己発熱性化学品 金属腐食性化学品	区分2 区分に該当しない 分類できない 分類できない
健康に対する有毒性	急性毒性(経口) 急性毒性(経皮) 急性毒性(吸入:蒸気) 急性毒性(吸入:ミスト) 皮膚腐食性/刺激性 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 呼吸器感作性 皮膚感作性 生殖細胞変異原性 発がん性 生殖毒性 特定標的臓器毒性(単回ばく露) 特定標的臓器毒性(反復ばく露) 誤えん有害性	区分に該当しない 区分に該当しない 区分に該当しない 分類できない 区分に該当しない 区分2B 分類できない 分類できない 分類できない 分類できない 区分1A 区分3(気道刺激性、麻酔性) 区分1(肝臓)、区分2(神経) 分類できない
環境に対する有害性	水生環境有害性 短期(急性) 水生環境有害性 長期(慢性) オゾン層への有害性	区分に該当しない 区分に該当しない 分類できない

上記に記載がない危険有害性は、区分に該当しないか分類できない

### GHSのラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語

危険

危険有害性情報

引火性の液体および蒸気  
強い眼刺激  
生殖能または胎児への悪影響のおそれ  
呼吸器への刺激のおそれ  
眠気やめまいのおそれ  
長期または反復ばく露による肝臓の障害  
長期または反復ばく露による神経の障害のおそれ

注意書き

【安全対策】

使用前に取扱説明書を入手すること。  
熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること(禁煙)。  
防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。  
容器を接地すること、アースをとること。  
火花を発生させない工具を使用すること。  
静電気放電に対する予防措置を講ずること。  
容器を密閉しておくこと。  
涼しいところに置くこと。  
ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。  
取り扱い後は手をよく洗うこと。  
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。  
屋外または換気の良い区域でのみ使用すること。  
保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。  
指定された個人用保護具を使用すること。

【保管】

換気のよい場所で保管すること。  
直射日光の当たる場所には保管しないこと。  
容器を密閉しておくこと。

【廃棄】

内容物や容器を自治体の規定に従い廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

単一・混合物の区別

混合物

成分及び含有量

化学名	CAS番号	含有量(wt%)
エタノール	64-17-5	50.0
グリセリン脂肪酸エステル	-	0.20
乳酸	79-33-4	0.75
乳酸ナトリウム	867-56-1	0.20
精製水	7732-18-5	48.85

4. 応急措置

皮膚(又は毛髪)に付着した場合

直ちに、すべての汚染された衣類を脱ぐこと、取り除くこと。  
皮膚を流水、シャワーで洗うこと。

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

気分が悪い時は医師に連絡すること。

#### 眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易に外せる場合には外すこと。その後も洗浄を続けること。

医師の診断、手当てを受けること。

#### ばく露またはその懸念がある場合

医師の診断、手当を受けること。

#### 目の刺激が持続する場合

医師の診断、手当を受けること。

気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

#### 火災の場合

消火のために大量の水噴霧、またはアルコール用の消火器を使用すること。

#### 飲み込んだ場合

水でよく口の中を洗浄した後、コップ数杯の清水を飲ませ希釈し、可能であれば吐き出させ、ただちに医師の手当てを受ける。ただし、意識がない場合は口から何も与えてはならない  
また、吐かせようとしてはならない。直ちに医師の手当てを受ける。

## 5. 火災時の措置

### 消火剤

耐アルコール泡、水、粉末、炭酸ガス

### 消火方法

初期の火災には、大量の水噴霧、または粉末、炭酸ガスなどの消火器による消火を行う。  
大規模火災には、耐アルコール泡消火剤を用いて空気を遮断する。

## 6. 漏出時の措置

### 人体に対する注意事項／保護具及び緊急時処置：

関係者以外の立ち入りを禁止する。

高濃度の蒸気にさらされないように保護眼鏡、適当な保護具を着用する。

### 環境に対する注意事項

流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。  
大量の水で希釈する場合は、汚染された排水が適切に処理されずに環境へ流出しないように注意する。

### 封じ込め及び浄化の方法・機材

少量の場合には、こぼれた場所を速やかに大量の水で洗い流す。

大量の場合には、漏出液を密閉式の空容器に出来るだけ回収し  
回収できなかった場所へは大量の水で洗い流す。

### 二次災害の防止策

浸透性及び揮発性があるので、付近の着火源となるものは速やかに取り除く。

## 7. 取り扱い及び保管上の注意

### 取扱い

#### 技術的対策

「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

#### 局所排気・全体換気

「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、換気に注意する。

#### 注意事項

みだりに火気その他着火源となる恐れのあるものに接近させ若しくは注ぎ、蒸発させ、又は加熱しないこと。

容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。

取扱い及び保管施設の電気設備は、すべて防爆構造とし、アルコール流動その他によって静電気を発生させる恐れのある場所にはこれを有効に除去する装置を設けること。  
取扱う設備のある場所を常に整理整頓し、その場所に可燃性のもの、又は酸化性のものを置かない。

安全取扱い注意事項 「10. 安定性及び反応性」を参照

## 保管

適切な保管条件 火気その他危険な場所から遠ざけ通風を良くし、温度、湿度、遮光に注意し冷暗所に保管する。  
容器容器の蓋は閉めておく。  
直射日光の当たる場所には保存しないこと。

## 8. ばく露防止及び保護措置

設備対策 取り扱いについては、火気のない換気の良い場所で行う。

許容濃度 エタノール100%の場合  
日本産衛学会 設定なし(2009年版)  
ACGIH STEL 1,000ppm(2009年版)

管理濃度 エタノール100%の場合 設定なし

保護具 必要に応じてゴム手袋、ゴム前掛、安全靴、保護眼鏡、保護マスクを着用する。

## 9. 物理的及び化学的性質

外観等 無色透明な液体で特有の芳香を持つ。

pH 3.7 ~ 4.7

溶解溶解度 水、エーテルによく溶ける

沸点、融点 データなし

引火点、自然発火温度 データなし

燃焼又は爆発範囲の上限、下限  
データなし

蒸気圧、蒸気密度 データなし

比重(相対密度) 0.916 ~ 0.921 (15°C)

## 10. 安定性及び反応性

化学的安定性 通常の取り扱い条件においては安定であり、危険有害な分解生成物は発生しない。

危険有害反応可能性 硝酸、硝酸銀、硝酸水銀、過塩素酸マグネシウムなどの強酸化剤と激しく反応し、火災や爆発の危険をもたらす。  
ある種のプラスチック、ゴム、被膜剤を侵す。

避けるべき条件 高温へのばく露

混触危険物質 情報なし

危険有害な分解生成物 情報なし

## 11. 有害性情報(エタノール(事業法アルコール)として)

急性毒性 経口 ヒト LDL0 1,400mg/kg 行動、胃腸(吐気)  
経口 ラット LD50 7,060mg/kg 呼吸器系  
経口 ヒト(男) TDL0 700mg/kg 行動(精神生理学上)  
吸入 ラット LC50 20,000ppm/10h 毒性未評価  
注射 ラット LD50 1,440mg/kg 呼吸器系

	注射 犬 LDL0 1,600mg/kg 運動失調、呼吸器系 腹腔 哺乳類 LD50 4,300mg/kg 運動失調
皮膚腐食性／刺激性	皮膚 ラビット 400mg 開放 症状(軽度) 皮膚 ラビット 500mg/24h 症状(重度)
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	OECD TG405及びDraize testに従った試験により「moderate irritating」と評価されている。 ヒトで角膜上皮の障害、結膜充血は1、2日間で回復する。 眼 ラビット 100mg/24h 症状(中度)
呼吸器感受性	情報なし
皮膚感受性	動物試験での有意の皮膚感受性は見られない。
生殖細胞変異原性	ラット及びマウスにおける優勢致死試験において、陽性結果の報告がある。
変異原性	小核 マウス(腹腔) :1,240mg/kg・48h
発がん性	IARCでは「アルコール性飲料としてヒトに発がん性がある」としてグループ1に分類しているが、これは、アルコール性飲料を習慣的に摂取するヒトの多数の疫学調査に基づき、アルコール性飲料と食道系及び肝臓がんの因果関係を認めたものである。 経口 マウス TDL0 320mg/kg/50週 毒性未評価
生殖毒性	アルコールの習慣的な大量摂取により、ヒト胎児に対する奇形その他の悪影響が多数報告されている。 吸入 ラット TCL0 20,000ppm/7h、妊娠、1～22日 発育異常 経口 ラット TDL0 44g/kg、妊娠、7～17日 発育異常
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	ヒトでエタノールの経口摂取により中枢神経に影響を与え、頭痛、疲労、集中力を低下させ急性中毒の場合には、死に至ることがある。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	ヒトで5,000ppm(9.4mg/L)の吸入により、気道刺激性、昏迷、病的睡眠を起こす。 ヒトでアルコールの長期大量摂取によりほとんどすべての器官に障害を起こすが最も悪影響を与える標的臓器は肝臓である。障害は脂肪変性に始まり、壊死と繊維化を経て肝硬変に至る。 アルコール中毒患者の禁断症状(振戦症状、てんかん、精神錯乱)
誤えん有害性	情報なし

## 12. 環境影響情報(エタノール(事業法アルコール)として)

残留性／分解性	データなし
生態毒性	データなし
生物蓄積性	データなし
土壌中の移動性	データなし
オゾン層有害性	データなし

## 13. 廃棄上の注意

残余廃棄物については、燃焼炉の火室へ噴霧し、焼却する。  
 廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。  
 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、若しくは、地方公共団体がその処理を行っている場合には、そこへ委託して処理する。  
 廃棄物の処理を委託する場合、処理業者に危険性、有害性を十分告知のうえ処理を委託する。  
 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

使用後の容器又は配管等を廃棄処分する時は、内容物を水洗してから処理する。  
取扱い及び保管上の注意の項の記載による他、引火性液体に関する一般的な  
注意事項による。

#### 14. 輸送上の注意

国連分類	クラス 3 (引火性液体) 国連番号 : 1987 アルコール類 容器等級 II
国内規制	
航空法	規則第194条 3 引火性液体 (引火点60℃以下)
港則法	規則第12条 危険物告示別表 2号 ホ
海洋汚染及び海上災害の防止に関する法律	
	施行令別表第13号 イ 20 Z類物質
危険物船舶運送及び貯蔵規則	第2条第1号 ハ (1) 引火性液体

取扱い及び保管上の注意の項の記載による

#### 15. 適用法令

化学物質排出把握管理促進法	非該当
消防法	非該当
食品衛生法	食品添加物
労働安全衛生法	施行令 別表第1 危険物 第4号 引火性の物 3(エタノール) 施行令 別表第9 名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物 61(エタノール)

#### 16. その他の情報

参考文献	財団法人バイオインダストリー協会 : アルコールハンドブック第9版(1997) 社団法人日本化学会編:化学便覧(改定4版)p. I - 280、I - 604、丸善(1993) 化学工業日報社:13700の化学商品. 化学工業日報社; 国際化学物質安全性カード(ICSC) 日本語版第3集(1997) 通産省公報(平成5年12月28日) Verschuieren, K. : Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals 4th ed.,(2001) 独立行政法人製品評価技術基盤機構 GHS分類結果 ID:25B0007 エタノール(平成25年度) DFGOT (1996) ACGIH (2009) DFGOT vol.12(1999) IARC vol.144(1988) ICSC (2000) HSDB (2003)
------	---

#### 【注意】

この情報は新しい知見及び試験等により改正されることがあります。

記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが

情報の正確さ、完全性を保証するものではありません。

注意事項は通常の実用を前提としたものです。特別な扱いをする場合には、新たに用途・用法に  
適した安全対策を講じた上で実施願います。

全ての化学品には未知の有毒性があり得るため、取扱いには細心の注意が必要です。

本品の適正に関する決定は、使用者の責任において行ってください。

作成日 2016年7月21日

改訂日 2025年2月10日

# 安全データシート(SDS)

## 1. 製品および会社情報

製品名 ノロMGF  
会社名 美峰酒類株式会社  
住 所 〒370-0807 群馬県高崎市歌川町1番地  
担当部門 営業部  
電話番号 027-322-2155  
FAX番号 027-327-2404  
緊急連絡先 同上  
推奨用途及び  
使用上の制限 食品の品質保持、製造器具等の除菌

## 2. 危険物有害性の要約

### GHS分類

物理化学的危険性	引火性液体 自然発火性液体 自己発熱性化学品 金属腐食性化学品	区分2 区分に該当しない 分類できない 分類できない
健康に対する有毒性	急性毒性(経口) 急性毒性(経皮) 急性毒性(吸入:蒸気) 急性毒性(吸入:ミスト) 皮膚腐食性/刺激性 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 呼吸器感作性 皮膚感作性 生殖細胞変異原性 発がん性 生殖毒性 特定標的臓器毒性(単回ばく露) 特定標的臓器毒性(反復ばく露) 誤えん有害性	区分に該当しない 区分に該当しない 区分に該当しない 分類できない 区分に該当しない 区分2B 分類できない 分類できない 分類できない 分類できない 区分1A 区分3(気道刺激性、麻酔性) 区分1(肝臓)、区分2(神経) 分類できない
環境に対する有害性	水生環境有害性 短期(急性) 水生環境有害性 長期(慢性) オゾン層への有害性	区分に該当しない 区分に該当しない 分類できない

上記に記載がない危険有害性は、区分に該当しないか分類できない

### GHSのラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語	危険
危険有害性情報	引火性の液体および蒸気 強い眼刺激 生殖能または胎児への悪影響のおそれ 呼吸器への刺激のおそれ 眠気やめまいのおそれ 長期または反復ばく露による肝臓の障害 長期または反復ばく露による神経の障害のおそれ

注意書き	<b>【安全対策】</b>	<p>使用前に取扱説明書を入手すること。</p> <p>熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること(禁煙)。</p> <p>防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。</p> <p>容器を接地すること、アースをとること。</p> <p>火花を発生させない工具を使用すること。</p> <p>静電気放電に対する予防措置を講ずること。</p> <p>容器を密閉しておくこと。</p> <p>涼しいところに置くこと。</p> <p>ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。</p> <p>取り扱い後は手をよく洗うこと。</p> <p>この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。</p> <p>屋外または換気の良い区域でのみ使用すること。</p> <p>保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。</p> <p>指定された個人用保護具を使用すること。</p>
	<b>【保管】</b>	<p>換気のよい場所で保管すること。</p> <p>直射日光の当たる場所には保管しないこと。</p> <p>容器を密閉しておくこと。</p>
	<b>【廃棄】</b>	内容物や容器を自治体の規定に従い廃棄すること。

### 3. 組成及び成分情報

単一・混合物の区別 混合物

成分及び含有量

化学名	CAS番号	含有量(wt%)
エタノール	64-17-5	48.0
グリセリン脂肪酸エステル	-	0.3
乳酸	79-33-4	0.6
乳酸ナトリウム	867-56-1	0.2
トレハロース	-	0.5
グレープフルーツ種子抽出物	-	0.1
精製水	7732-18-5	50.3

### 4. 応急措置

皮膚(又は毛髪)に付着した場合  
直ちに、すべての汚染された衣類を脱ぐこと、取り除くこと。

皮膚を流水、シャワーで洗うこと。

#### 吸入した場合

空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

気分が悪い時は医師に連絡すること。

#### 眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易に

外せる場合には外すこと。その後も洗浄を続けること。

医師の診断、手当てを受けること。

#### ばく露またはその懸念がある場合

医師の診断、手当を受けること。

#### 目の刺激が持続する場合

医師の診断、手当を受けること。

気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

#### 火災の場合

消火のために大量の水噴霧、またはアルコール用の消火器を

使用すること。

#### 飲み込んだ場合

水でよく口の中を洗浄した後、コップ数杯の清水を飲ませ希釈し、可能であれば

吐き出させ、ただちに医師の手当てを受ける。ただし、意識がない場合は

口から何も与えてはならない

また、吐かせようとしてはならない。直ちに医師の手当てを受ける。

## 5. 火災時の措置

### 消火剤

耐アルコール泡、水、粉末、炭酸ガス

### 消火方法

初期の火災には、大量の水噴霧、または粉末、炭酸ガスなどの消火器による消火を行う。

大規模火災には、耐アルコール泡消火剤を用いて空気を遮断する。

## 6. 漏出時の措置

### 人体に対する注意事項／保護具及び緊急時処置：

関係者以外の立ち入りを禁止する。

高濃度の蒸気にさらされないように保護眼鏡、適当な保護具を着用する。

### 環境に対する注意事項

流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。

大量の水で希釈する場合は、汚染された排水が適切に処理されずに環境へ

流出しないように注意する。

### 封じ込め及び浄化の方法・機材

少量の場合には、こぼれた場所を速やかに大量の水で洗い流す。

大量の場合には、漏出液を密閉式の空容器に出来るだけ回収し

回収できなかった場所へは大量の水で洗い流す。

### 二次災害の防止策

浸透性及び揮発性があるので、付近の着火源となるものは速やかに取り除く。

## 7. 取り扱い及び保管上の注意

### 取扱い

#### 技術的対策

「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

#### 局所排気・全体換気

「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、換気に注意する。

注意事項	みだりに火気その他点火源となる恐れのあるものに接近させ若しくは注ぎ、蒸発させ、又は加熱しないこと。 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。 取扱い及び保管施設の電気設備は、すべて防爆構造とし、アルコール流動その他によって静電気を発生させる恐れのある場所にはこれを有効に除去する装置を設けること。 取扱う設備のある場所を常に整理整頓し、その場所に可燃性のもの、又は酸化性のものを置かない。
安全取扱い注意事項	「10. 安定性及び反応性」を参照
保管	
適切な保管条件	火気その他危険な場所から遠ざけ通風を良くし、温度、湿度、遮光に注意し冷暗所に保管する。 容器容器の蓋は閉めておく。 直射日光の当たる場所には保存しないこと。
8. ばく露防止及び保護措置	
設備対策	取り扱いについては、火気のない換気の良い場所で行う。
許容濃度	エタノール100%の場合 日本産衛学会 設定なし(2009年版) ACGIH STEL 1,000ppm(2009年版)
管理濃度	エタノール100%の場合 設定なし
保護具	必要に応じてゴム手袋、ゴム前掛、安全靴、保護眼鏡、保護マスクを着用する。
9. 物理的及び化学的性質	
外観等	無色透明な液体で特有の芳香を持つ。
pH	3.8 ~ 4.8
溶解溶解度	水、エーテルによく溶ける
沸点、融点	データなし
引火点、自然発火温度	データなし
燃焼又は爆発範囲の上限、下限	データなし
蒸気圧、蒸気密度	データなし
比重(相対密度)	0.921 ~ 0.927 (15°C)
10. 安定性及び反応性	
化学的安定性	通常の取り扱い条件においては安定であり、危険有害な分解生成物は発生しない。
危険有害反応可能性	硝酸、硝酸銀、硝酸水銀、過塩素酸マグネシウムなどの強酸化剤と激しく反応し、火災や爆発の危険をもたらす。 ある種のプラスチック、ゴム、被膜剤を侵す。
避けるべき条件	高温へのばく露
混触危険物質	情報なし
危険有害な分解生成物	情報なし
11. 有害性情報(エタノール(事業法アルコール)として)	
急性毒性	経口 ヒト LD <sub>50</sub> 1,400mg/kg 行動、胃腸(吐気) 経口 ラット LD <sub>50</sub> 7,060mg/kg 呼吸器系

	経口 ヒト(男) TDL0 700mg/kg 行動(精神生理学上)
	吸入 ラット LC50 20,000ppm/10h 毒性未評価
	注射 ラット LD50 1,440mg/kg 呼吸器系
	注射 犬 LDL0 1,600mg/kg 運動失調、呼吸器系
	腹腔 哺乳類 LD50 4,300mg/kg 運動失調
皮膚腐食性/刺激性	皮膚 ラビット 400mg 開放 症状(軽度) 皮膚 ラビット 500mg/24h 症状(重度)
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	OECD TG405及びDraize testに従った試験により「moderate irritating」と評価されている。 ヒトで角膜上皮の障害、結膜充血は1、2日間で回復する。 眼 ラビット 100mg/24h 症状(中度)
呼吸器感作性	情報なし
皮膚感作性	動物試験での有意の皮膚感作性は見られない。
生殖細胞変異原性	ラット及びマウスにおける優勢致死試験において、陽性結果の報告がある。
変異原性	小核 マウス(腹腔):1,240mg/kg・48h
発がん性	IARCでは「アルコール性飲料としてヒトに発がん性がある」としてグループ1に分類しているが、これは、アルコール性飲料を習慣的に摂取するヒトの多数の疫学調査に基づき、アルコール性飲料と食道系及び肝臓がんの因果関係を認めたものである。 経口 マウス TDL0 320mg/kg/50週毒性未評価
生殖毒性	アルコールの習慣的な大量摂取により、ヒト胎児に対する奇形その他の悪影響が多数報告されている。 吸入 ラット TCL0 20,000ppm/7h、妊娠、1～22日 発育異常 経口 ラット TDL0 44g/kg、妊娠、7～17日 発育異常
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	ヒトでエタノールの経口摂取により中枢神経に影響を与え、頭痛、疲労、集中力を低下させ急性中毒の場合には、死に至ることがある。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	ヒトで5,000ppm(9.4mg/L)の吸入により、気道刺激性、昏迷、病的睡眠を起こす。 ヒトでアルコールの長期大量摂取によりほとんどすべての器官に障害を起こすが最も悪影響を与える標的臓器は肝臓である。障害は脂肪変性に始まり、壊死と繊維化を経て肝硬変に至る。 アルコール中毒患者の禁断症状(振戦症状、てんかん、精神錯乱)
誤えん有害性	情報なし

## 12. 環境影響情報(エタノール(事業法アルコール)として)

残留性/分解性	データなし
生態毒性	データなし
生物蓄積性	データなし
土壌中の移動性	データなし
オゾン層有害性	データなし

## 13. 廃棄上の注意

残余廃棄物については、燃焼炉の火室へ噴霧し、焼却する。  
廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。  
都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、若しくは、地方公共団体がその処理を行っている場合には、そこへ委託して処理する。  
廃棄物の処理を委託する場合、処理業者に危険性、有害性を十分告知のうえ

処理を委託する。

容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

使用後の容器又は配管等を廃棄処分する時は、内容物を水洗してから処理する。

取扱い及び保管上の注意の項の記載による他、引火性液体に関する一般的な注意事項による。

#### 14. 輸送上の注意

国連分類	クラス 3 (引火性液体) 国連番号 : 1987 アルコール類 容器等級 II
国内規制	
航空法	規則第194条 3 引火性液体 (引火点60℃以下)
港則法	規則第12条 危険物告示別表 2号 ホ
海洋汚染及び海上災害の防止に関する法律	施行令別表第13号 イ 20 Z類物質
危険物船舶運送及び貯蔵規則	第2条第1号 ハ (1) 引火性液体

取扱い及び保管上の注意の項の記載による

#### 15. 適用法令

化学物質排出把握管理促進法	非該当
消防法	非該当
食品衛生法	食品添加物
労働安全衛生法	施行令 別表第1 危険物 第4号 引火性の物 3(エタノール) 施行令 別表第9 名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物 61(エタノール)

#### 16. その他の情報

参考文献	財団法人バイオインダストリー協会 : アルコールハンドブック第9版(1997) 社団法人日本化学会編:化学便覧(改定4版)p. I - 280、I - 604、丸善(1993) 化学工業日報社:13700の化学商品. 化学工業日報社:国際化学物質安全性カード(ICSC)日本語版第3集(1997) 通産省公報(平成5年12月28日) Verschuereen, K. : Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals 4th ed.,(2001) 独立行政法人製品評価技術基盤機構 GHS分類結果 ID:25B0007 エタノール(平成25年度) DFGOT (1996) ACGIH (2009) DFGOT vol.12(1999) IARC vol.144(1988) ICSC (2000) HSDB (2003)
------	--

#### 【注意】

この情報は新しい知見及び試験等により改正されることがあります。

記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが

情報の正確さ、完全性を保証するものではありません。

注意事項は通常の取扱いを対象としたものです。特別な扱いをする場合には、新たに用途・用法に適した安全対策を講じた上で実施願います。

全ての化学品には未知の毒性があり得るため、取扱いには細心の注意が必要です。

本品の適正に関する決定は、使用者の責任において行ってください。



# 安全データシート(SDS)

## 1. 製品および会社情報

製品名	マミーピュア67
会社名	美峰酒類株式会社
住所	〒370-0807 群馬県高崎市歌川町1番地
担当部門	営業部
電話番号	027-322-2155
FAX番号	027-327-2404
緊急連絡先	同上
推奨用途及び 使用上の制限	食品の品質保持、製造器具等の除菌

## 2. 危険物有害性の要約

### GHS分類

物理化学的危険性	引火性液体	区分2
	自然発火性液体	区分に該当しない
	自己発熱性化学品	分類できない
健康に対する有毒性	金属腐食性化学品	分類できない
	急性毒性(経口)	区分に該当しない
	急性毒性(経皮)	区分に該当しない
	急性毒性(吸入:蒸気)	区分に該当しない
	急性毒性(吸入:ミスト)	分類できない
	皮膚腐食性/刺激性	区分に該当しない
	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分2B
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	区分1A
	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分3(気道刺激性、麻醉性)
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分1(肝臓)、区分2(神経)	
誤えん有害性	分類できない	
環境に対する有害性	水生環境有害性 短期(急性)	区分に該当しない
	水生環境有害性 長期(慢性)	区分に該当しない
	オゾン層への有害性	分類できない

上記に記載がない危険有害性は、区分に該当しないか分類できない

### GHSのラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語

危険

危険有害性情報

引火性の液体および蒸気  
強い眼刺激  
生殖能または胎児への悪影響のおそれ  
呼吸器への刺激のおそれ  
眠気やめまいのおそれ  
長期または反復ばく露による肝臓の障害  
長期または反復ばく露による神経の障害のおそれ

注意書き

【安全対策】

使用前に取扱説明書を入手すること。  
熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること(禁煙)。  
防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。  
容器を接地すること、アースをとること。  
火花を発生させない工具を使用すること。  
静電気放電に対する予防措置を講ずること。  
容器を密閉しておくこと。  
涼しいところに置くこと。  
ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。  
取り扱い後は手をよく洗うこと。  
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。  
屋外または換気の良い区域でのみ使用すること。  
保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。  
指定された個人用保護具を使用すること。

【保管】

換気のよい場所で保管すること。  
直射日光の当たる場所には保管しないこと。  
容器を密閉しておくこと。

【廃棄】

内容物や容器を自治体の規定に従い廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

単一・混合物の区別

混合物

成分及び含有量

化学名	CAS番号	含有量(wt%)
エタノール	64-17-5	59.3
乳酸	79-33-4	0.75
乳酸ナトリウム	867-56-1	0.2
トレハロース	-	0.3
ピュアトースL(マルトオリゴ糖)	-	0.2
精製水	7732-18-5	39.25

4. 応急措置

皮膚(又は毛髪)に付着した場合

直ちに、すべての汚染された衣類を脱ぐこと、取り除くこと。

皮膚を流水、シャワーで洗うこと。

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

気分が悪い時は医師に連絡すること。

#### 眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易に

外せる場合には外すこと。その後も洗浄を続けること。

医師の診断、手当てを受けること。

#### ばく露またはその懸念がある場合

医師の診断、手当てを受けること。

#### 目の刺激が持続する場合

医師の診断、手当てを受けること。

気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

#### 火災の場合

消火のために大量の水噴霧、またはアルコール用の消火器を

使用すること。

#### 飲み込んだ場合

水でよく口の中を洗浄した後、コップ数杯の清水を飲ませ希釈し、可能であれば

吐き出させ、ただちに医師の手当てを受ける。ただし、意識がない場合は

口から何も与えてはならない

また、吐かせようとしてはならない。直ちに医師の手当てを受ける。

## 5. 火災時の措置

### 消火剤

耐アルコール泡、水、粉末、炭酸ガス

### 消火方法

初期の火災には、大量の水噴霧、または粉末、炭酸ガスなどの消火器による消火を行う。  
大規模火災には、耐アルコール泡消火剤を用いて空気を遮断する。

## 6. 漏出時の措置

### 人体に対する注意事項／保護具及び緊急時処置：

関係者以外の立ち入りを禁止する。

高濃度の蒸気にさらされないように保護眼鏡、適当な保護具を着用する。

### 環境に対する注意事項

流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。

大量の水で希釈する場合は、汚染された排水が適切に処理されずに環境へ流出しないように注意する。

### 封じ込め及び浄化の方法・機材

少量の場合には、こぼれた場所を速やかに大量の水で洗い流す。

大量の場合には、漏出液を密閉式の空容器に出来るだけ回収し

回収できなかった場所へは大量の水で洗い流す。

### 二次災害の防止策

浸透性及び揮発性があるので、付近の着火源となるものは速やかに取り除く。

## 7. 取り扱い及び保管上の注意

### 取扱い

#### 技術的対策

「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

#### 局所排気・全体換気

「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、換気に注意する。

#### 注意事項

みだりに火気その他着火源となる恐れのあるものに接近させ若しくは注ぎ、蒸発させ、又は加熱しないこと。

容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。  
 取扱い及び保管施設の電気設備は、すべて防爆構造とし、アルコール流動その他によって  
 静電気を発生させる恐れのある場所にはこれを有効に除去する装置を設けること。  
 取扱う設備のある場所を常に整理整頓し、その場所に可燃性のもの、又は酸化性のものを  
 置かない。

安全取扱い注意事項 「10. 安定性及び反応性」を参照

#### 保管

適切な保管条件 火気その他危険な場所から遠ざけ通風を良くし、温度、湿度、遮光に注意し  
 冷暗所に保管する。  
 容器容器の蓋は閉めておく。  
 直射日光の当たる場所には保存しないこと。

#### 8. ばく露防止及び保護措置

設備対策 取り扱いについては、火気のない換気の良い場所で行う。

許容濃度 エタノール100%の場合  
 日本産衛学会 設定なし(2009年版)  
 ACGIH STEL 1,000ppm(2009年版)

管理濃度 エタノール100%の場合 設定なし

保護具 必要に応じてゴム手袋、ゴム前掛、安全靴、保護眼鏡、保護マスクを着用する。

#### 9. 物理的及び化学的性質

外観等 無色透明な液体で特有の芳香を持つ。

pH 4.0 ～ 5.0

溶解溶解度 水、エーテルによく溶ける

沸点、融点 データなし

引火点、自然発火温度 データなし

燃焼又は爆発範囲の上限、下限  
 データなし

蒸気圧、蒸気密度 データなし

比重(相対密度) 0.896 ～ 0.904 (15°C)

#### 10. 安定性及び反応性

化学的安定性 通常の取り扱い条件においては安定であり、危険有害な分解生成物は発生しない。

危険有害反応可能性 硝酸、硝酸銀、硝酸水銀、過塩素酸マグネシウムなどの強酸化剤と激しく反応し、  
 火災や爆発の危険をもたらす。  
 ある種のプラスチック、ゴム、被膜剤を侵す。

避けるべき条件 高温へのばく露

混触危険物質 情報なし

危険有害な分解生成物 情報なし

#### 11. 有害性情報(エタノール(事業法アルコール)として)

急性毒性 経口 ヒト LD<sub>50</sub> 1,400mg/kg 行動、胃腸(吐気)  
 経口 ラット LD<sub>50</sub> 7,060mg/kg 呼吸器系  
 経口 ヒト(男) TD<sub>01</sub> 700mg/kg 行動(精神生理学上)  
 吸入 ラット LC<sub>50</sub> 20,000ppm/10h 毒性未評価

注射 ラット LD50 1,440mg/kg 呼吸器系  
注射 犬 LD50 1,600mg/kg 運動失調、呼吸器系  
腹腔 哺乳類 LD50 4,300mg/kg 運動失調

皮膚腐食性／刺激性 皮膚 ラビット 400mg 開放 症状(軽度)  
皮膚 ラビット 500mg/24h 症状(重度)

#### 眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性

OECD TG405及びDraize testに従った試験により「moderate irritating」と評価されている。  
ヒトで角膜上皮の障害、結膜充血は1、2日間で回復する。  
眼 ラビット 100mg/24h 症状(中度)

#### 呼吸器感作性

情報なし

#### 皮膚感作性

動物試験での有意の皮膚感作性は見られない。

#### 生殖細胞変異原性

ラット及びマウスにおける優勢致死試験において、陽性結果の報告がある。

#### 変異原性

小核 マウス(腹腔) :1,240mg/kg・48h

#### 発がん性

IARCでは「アルコール性飲料としてヒトに発がん性がある」としてグループ1に分類しているが、これは、アルコール性飲料を習慣的に摂取するヒトの多数の疫学調査に基づき、アルコール性飲料と食道系及び肝臓がんの因果関係を認めたものである。

#### 生殖毒性

経口 マウス TDL0 320mg/kg/50週毒性未評価

アルコールの習慣的な大量摂取により、ヒト胎児に対する奇形その他の悪影響が多数報告されている。

吸入 ラット TCL0 20,000ppm/7h、妊娠、1～22日 発育異常

経口 ラット TDL0 44g/kg、妊娠、7～17日 発育異常

#### 特定標的臓器毒性(単回ばく露)

ヒトでエタノールの経口摂取により中枢神経に影響を与え、頭痛、疲労、集中力を低下させ急性中毒の場合には、死に至ることがある。

#### 特定標的臓器毒性(反復ばく露)

ヒトで5,000ppm(9.4mg/L)の吸入により、気道刺激性、昏迷、病的睡眠を起こす。  
ヒトでアルコールの長期大量摂取によりほとんどすべての器官に障害を起こすが最も悪影響を与える標的臓器は肝臓である。障害は脂肪変性に始まり、壊死と繊維化を経て肝硬変に至る。

#### 誤えん有害性

アルコール中毒患者の禁断症状(振戦症状、てんかん、精神錯乱)

情報なし

## 12. 環境影響情報(エタノール(事業法アルコール)として)

#### 残留性／分解性

データなし

#### 生態毒性

データなし

#### 生物蓄積性

データなし

#### 土壌中の移動性

データなし

#### オゾン層有害性

データなし

## 13. 廃棄上の注意

残余廃棄物については、燃焼炉の火室へ噴霧し、焼却する。

廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。

都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、若しくは、地方公共団体がその処理を行っている場合には、そこへ委託して処理する。

廃棄物の処理を委託する場合、処理業者に危険性、有害性を十分告知のうえ処理を委託する。

容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な

処分を行う。

使用後の容器又は配管等を廃棄処分する時は、内容物を水洗してから処理する。  
取扱い及び保管上の注意の項の記載による他、引火性液体に関する一般的な  
注意事項による。

#### 14. 輸送上の注意

国連分類	クラス 3 (引火性液体) 国連番号 : 1987 アルコール類 容器等級 II
国内規制	
航空法	規則第194条 3 引火性液体 (引火点60℃以下)
港則法	規則第12条 危険物告示別表 2号 ホ
海洋汚染及び海上災害の防止に関する法律	施行令別表第13号 イ 20 Z類物質
危険物船舶運送及び貯蔵規則	第2条第1号 ハ (1) 引火性液体

取扱い及び保管上の注意の項の記載による

#### 15. 適用法令

化学物質排出把握管理促進法	非該当
消防法	非該当
食品衛生法	食品添加物
労働安全衛生法	施行令 別表第1 危険物 第4号 引火性の物 3(エタノール) 施行令 別表第9 名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物 61(エタノール)

#### 16. その他の情報

参考文献	財団法人バイオインダストリー協会 : アルコールハンドブック第9版(1997) 社団法人日本化学会編:化学便覧(改定4版)p. I - 280、I - 604、丸善(1993) 化学工業日報社:13700の化学商品. 化学工業日報社:国際化学物質安全性カード(ICSC) 日本語版第3集(1997) 通産省公報(平成5年12月28日) Verschueren, K. : Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals 4th ed.,(2001) 独立行政法人製品評価技術基盤機構 GHS分類結果 ID:25B0007 エタノール(平成25年度) DFGOT (1996) ACGIH (2009) DFGOT vol.12(1999) IARC vol.144(1988) ICSC (2000) HSDB (2003)
------	---

#### 【注意】

この情報は新しい知見及び試験等により改正されることがあります。

記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが

情報の正確さ、完全性を保証するものではありません。

注意事項は通常の実施を前提としたものです。特別な扱いをする場合には、新たに用途・用法に  
適した安全対策を講じた上で実施願います。

全ての化学品には未知の有毒性があり得るため、取扱いには細心の注意が必要です。

本品の適正に関する決定は、使用者の責任において行ってください。